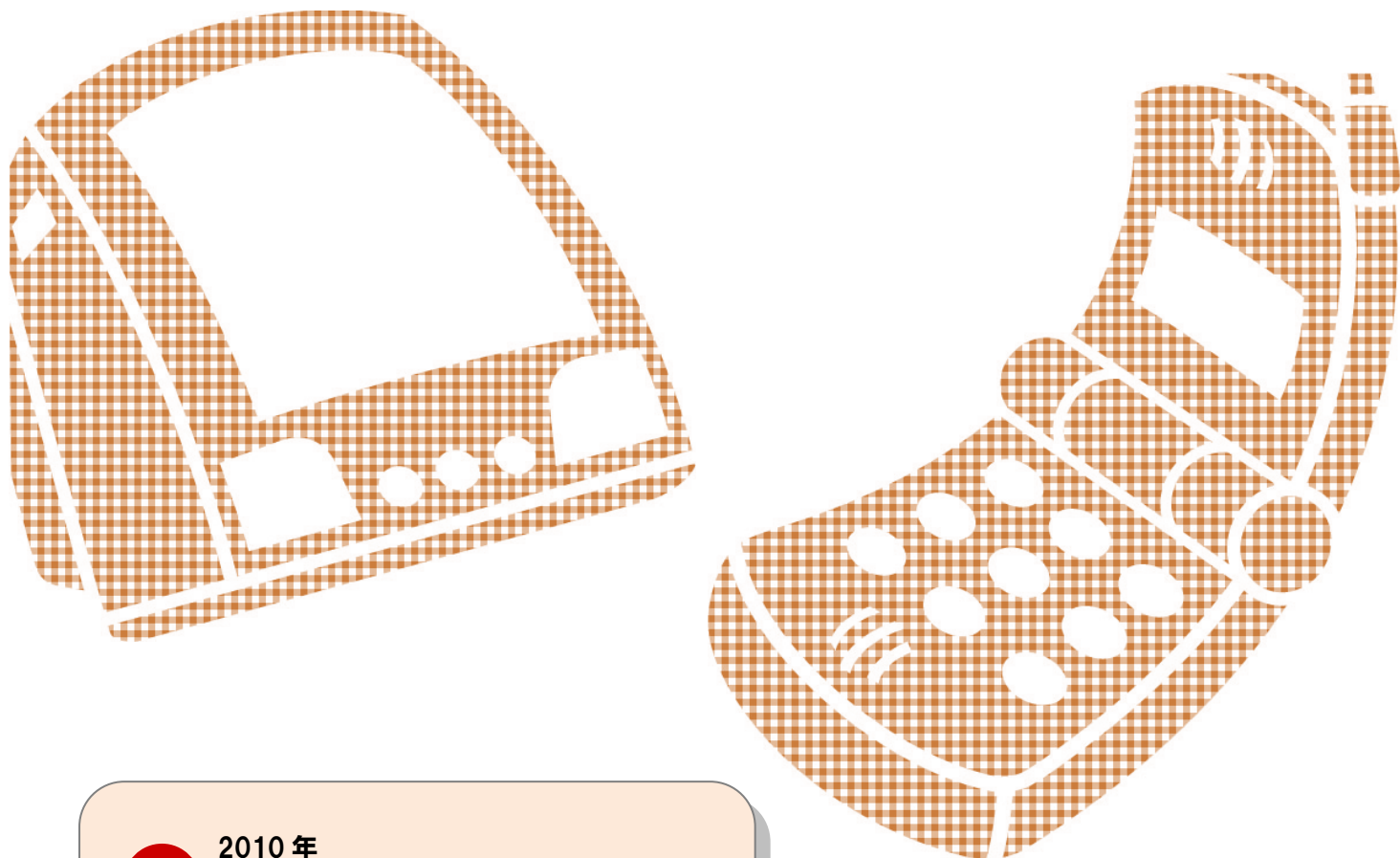


第5回全国フォーラム



# 「子どもとメディア」の 新しい関係を求めて10年

～各地のとりにくみと子どもたちの日々～



日時

2010年  
2月13日(土)・14日(日)の2日間  
13:00～17:00 10:00～12:45

会場

福岡市 中央市民センター  
ホール(13日)・会議室(14日)  
(福岡市中央区赤坂2-5-8)

参加費

3,000円(2日間通し)

定員

500名(定員になり次第受付終了)

14日(日)

14:00～17:00

インストラクターステップアップ講座  
思春期へのケータイ・ネット問題啓発  
～中高生のところに届く伝え方～

1,000円

主催：NPO法人子どもとメディア

後援：福岡県・福岡市・福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

2003年、2007年と二度にわたる国際調査（IEA）で、両回とも日本の子どもたちの電子メディア接触時間は世界一長いことが明らかになりました。このところ日本の子どもたちの電子メディア接触時間は二極化の傾向が見られます。「ノーメディア」「アウトメディア」の活動が広がって短時間接触児が増える一方で、パソコン・ケータイの普及に伴い1日10数時間のメディア接触という“ネット中毒”と呼ばれる子どもたちもめずらしくない状況も生まれています。

生身の人間のぬくもりよりも無機質なメディア機器との接触が増えた子どもたちは深い孤独の闇に迷っています。今、日本では毎日1.4人の子どもが自ら命を断ち、3人に1人の15歳児が孤独を訴えているのです（ユニセフ調査、07年）。

私たちNPO子どもとメディアが“子どもとメディアの新しい関係”を求めて活動を始めて10年になります。この10年の間に私たちは8回にわたって子どものメディア接触についての詳細な実態調査を実施し、それに基づいていくつかの提言と“メディア漬け”を防ぎ脱け出すための実践的な方法を提案してきました。

現在、全国各地で子どもとメディアに関するさまざまな取り組みが始められています。

第5回となる今回の全国フォーラムでは、こうした各地の多彩な取り組みの様子を報告していただき、今後の活動の方向をさぐる場としたいと思います。

プログラム

2月13日(土)

13:00～17:00



## 「子どもの心とからだの発達不全」

～メディア接触がもたらすもの～

NPO法人子どもとメディア代表理事 清川 輝基

きよかわ・てるもと

東京大学教育学部教育行政学科卒業後、NHKに入局。社会報道番組ディレクターとして「ニュースセンター9時」などを担当。「何が子どもを死に追いやるのか」ほか、教育問題や子どもをテーマに取り上げた報道番組も多数手がける。66年「福岡子ども劇場」、99年「チャイルドライン支援センター」設立などの活動も続けてきた。著書に『人間になれない子どもたち-現代子育ての落とし穴』（樞出版社）、『「メディア漬け」で壊れる子どもたち』（内海裕美 共著・少年写真新聞社）がある。

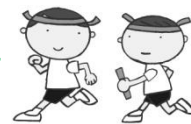
### 子どもとメディア10年のとりくみより

- ・ 子どもとメディアに関する実態調査報告
- ・ メディアリテラシー推進活動報告 ～メディアをより良く読み解くために～

### シアタープロジェクト（家族関係改善シュミレーション）

父はテレビ、姉はケータイ、弟はゲーム・・・

そんなどこにでもありそうな家族のちょっとしたトラブルをテーマにした芝居を上演し、子どもたちから「この家族関係を少しでもうまくいくようにするには、誰がどう変わったらいい？」とアイデアをもらって役者が即興で芝居を作りかえる・・・。欧米のドラマ教育の手法を導入した、新しい教育プログラム実践を紹介。



### リレートーク

動けば変わる！ノーテレビ・ノーゲームチャレンジ  
佐伯 美保

町全体でノーメディア運動、5年の経過  
村上 千幸

全市でチャレンジ「ノーテレビ」「ノーゲーム」  
伊藤 紀子

「ノーテレビ」で心とからだの健康～学校全体でのとりくみ～  
松本 次朗

メディアインストラクター養成講座とその後の展開  
品川 智成

ノーテレビ運動5年町の子どもたちは今…  
藤原 彰二

生徒自身によるケータイ問題の取り組み  
大山 圭湖

「ココロねっこ運動」のケータイ・ネットの取り組み  
原 洋

タイムスケジュール

	10:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
13日(土)			基調講演		実態調査活動報告	15:15～ シアタープロジェクト リレートーク	
14日(日)	分科会 ~12:45				インストラクターステップアップ講座		

## 分科会

## メディア漬けから抜け出す試み

NPO法人子どもとメディアが発信した“脱メディア”の取り組みは、子どもたちの基本的な生活習慣を見直す大きな一歩に繋がってきました。

分科会では、全国各地に広がるさまざまな分野からの活き活きとした活動を紹介します。

## ① 乳幼児とメディア

佐伯 美保（福岡県福津市子育て  
ネットワークぶくぶく代表）  
村上 千幸（熊本県植木町 山東保育園園長）  
大森 繁世（山口県下関市 高尾保育園園長）

乳幼児期のメディア漬けのもたらす危険性は、愛着形成を妨げ、メディアリテラシー以前の問題。

NPO子どもとメディアの取り組みは、乳幼児からはじまりました。全国に広がった乳幼児へのアウトメディアの事例から、乳幼児健診での啓発で成果を上げている事例、乳幼児から町全体の取り組みに広がった事例、取り組み始めてぶつかった壁を越えようとしている事例などを紹介します。この10年の取り組みを振り返り、これからの乳幼児のメディア環境を一緒に考えます。

## ② 脱メディア ～学校現場では～

伊藤 紀子（島根県松江市 教育委員会）  
松本 次朗（鳥取県 米子市立福生東小学校）  
下田 功（アビスパ福岡株式会社）

子どもたちのメディア環境が複雑化し、メディア接触は二極化の傾向が見られます。その中で、学校現場を中心に取り組みが功を奏し、接触時間が短くなったケースもあります。

広がりを見せる教育現場での取り組み、より総合的な取り組みの事例を紹介し、学校現場でこれからどうしていくべきかを考えます。

## ③ 地域での取り組み

品川 智成（島根県益田市 教育委員会）  
藤原 彰二（鳥取県三朝町 教育委員会）  
上田 廣久（京都市教育委員会）  
安松 広子（福岡市教育委員会）

子どもとメディアの問題は、子どもの生活全般にかかわっており、家庭の問題、学校の問題では収まりません。あらゆる世代、あらゆる立場の人々が協力し、地域全体で取り組まなければ、根本的な解決が難しい問題です。

行政機関と地域、市民団体が連携して取り組んでいる事例を紹介し、どのような取り組みが必要になってくるかを考えます。

## ④ ケータイ・インターネット

大山 圭湖（大田区立大森第三中学校）  
原 洋（長崎県子ども未来課）  
筒井 愛知（I P U環太平洋大学）  
和田 貴美子（福岡県規範教育推進事業  
インストラクター）

ケータイ・ネット問題は、親や子どもに危険を知らせ、学校への持込みを禁止し、フィルタリングをかけるだけでは解決しません。特に思春期の子どもたちへの対応は、大人が子どもたちの行動や考えを知り、子どもたち自身で考え、気づき、行動を変えて行くようなアプローチが必要です。

子どもたちの主体性を大切にしたい実践を紹介し、効果的な対応策を考えます。

## 同時開催

14日(日)  
14:00～17:00

### インストラクターステップアップ講座 思春期へのケータイ・ネット問題啓発

～中高生のところに届く伝え方～

ケータイ所持率ほぼ100%の高校生、大人からの自立欲求がピークに達する中学生。ケータイ・ネット問題の啓発・対応が最も難しい対象者です。どこにポイントを置き、どういう語りかけをすれば、彼らのところに響くのか？

思春期への啓発活動を数多く行ってきている講師の実践に学びましょう。

講師：筒井 愛知（I P U環太平洋大学次世代教育学部講師）  
コーディネーター：古野 陽一（NPO法人子どもとメディア専務理事）

参加対象者：子どもとメディア問題の啓発活動を行っているみなさん



中央市民センター 福岡市中央区赤坂 2-5-8

- 〈会場アクセス〉・地下鉄空港線「赤坂駅」②番出口より徒歩5分  
・西鉄バス「赤坂門」バス停より徒歩5分  
(明治通り沿い)  
「警固町」バス停より徒歩3分  
(国道道路沿い)

※できるだけ公共交通機関をご利用ください

## 参加申込方法

<http://www16.ocn.ne.jp/~k-media/>

または別紙の「参加申込票」に必要事項を明記し

FAX.092-403-6262 まで送信

申込まいただいた個人情報は、本事業の確認・連絡以外に  
子どもとメディアからのご案内に使用することがあります。

### 参加費を振り込む

振込先 郵便振替 01720-9-107923  
特定非営利活動法人 子どもとメディア

### 「参加受付票」が届く

入金確認後、「参加受付票」をお送りいたします。

## NPO法人 子どもとメディア

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-2-7 みずほビル703  
TEL.092-724-6323/FAX.092-403-6262

お問い合わせメールアドレス ▶ [k-media@dolphin.ocn.ne.jp](mailto:k-media@dolphin.ocn.ne.jp)